



幼君輔佐之心得

附一志通惠

完

55
*



安政二年乙卯暮春刊

幼君輔佐之心得

完

一志通惠

甘雨亭藏板

K093
#55

序



余幼而孤。乏師保之訓。今年垂五旬。百事無成。可勝慨
我。因念閭閻世家。多長于婦人之手。驕惰成性。不通下
情。無知稼穡之艱難。往々來侮于下士者。職此之由。苟
非培養之幼時。則不可也。茲刊迂齋紹業氏所著幼君
輔佐之心得。附以春水賴氏所述一志通惠為一冊。以
示同志侯伯。使其君臣熟讀玩味。則未必無小補云爾。
安政二年暮春。節山板倉勝明識



幼君輔佐之心得

世に賢と云ふも智愚賢不肖の区あり生つきの心
 ちの如く六猶人の面のみく數千百人の多きを以てに品
 なく同くは然るべし人の性の本善なるは又水精
 の白く鏡の物なると刀の物とるべし火のや水のと
 ほそやしく仁義禮智の清く明なり唐大和の
 今のついでに夫人の形小くは心ち天地を以て萬
 物の主なるを治たてしるる愚なるは生れしとて

学ひくなく明くなく人非是れおれし聖人乃
 所代ふ学校と設け置上天子諸侯の若し下八庶人の
 物し孝弟忠信を教とけし後世ハ世表ハ
 道微く人々の教はる人まはるる位きく福
 亦も人も只まつこのまもく何事ハ世のなりと
 されし人の臣も是と輔佐する心く
 君のまもる心と徳正をまもるたれ君の善心出
 けり育くまもる只公邊の勤世間の交り

の事とほくおれく君ハ名聞利祿の心なく
 に目前ハの心なく切るる先も三綱五常とまもる事
 なく遠き慮りなくはる君の過ちとけ君の惡長
 ちて是は好く國家の治る日すなく乱の日多し
 大臣ハたれ君成しむる忠誠ありし婦人女子の忠と
 なく大臣の職とけし智者の笑とす終之とけ
 けり海幸ありし無下の動りなり今世の中は
 君の歳やわけし心とけし原小邪すけし非とけし

諫をんを防く人ハ或ハ教の及ぶ事ハ何らんソヤ
 智慧を争ひて幼君の心ヲ導くも教の及ぶ事ト大臣
 又ハ傳とて人ノ不才不徳の君ハ其ハ後ハ歳長
 徳を以て行ひしるハ大臣家老の歴とて其
 リ忠臣とて下の諫世の世も辨つて國家日
 乱と國やろらん時勢せまると免やせん角やせん
 臍と心のは悔りし及ぶ事ト是誰ノ罪ト
 其ハ宰相と替者の相小く言ふ事あり首

人の掘溝小おらんをたすけ給ふ替者の相と何り又
 君の道ち成すハ不義小陥めさる宰相の力ハ何り
 盲人の掘小墜君の惡小おらん誰ハ何れハ
 伊尹周公の幼君と相らるハ其志の厚ハ何れハ
 文成とて知る國の大臣幼君の傳ふとて其ハ
 何れハ

為人君止於仁と何れハたして其ハ文学才能何れハ
 の上とて仁心有る情けすくな人ハ民の父母とて

る事能くせ然れハ君の仁心及忠孝を本とす下む
 孟子齊の宣王の一牛の穀黷るに志のひさを稱し程
 子宋の哲宗効まると孔子の如く蟻小水とよむは
 一牛を廢たすけしは多しは是皆君の仁心と忠孝
 とくは其仁心と忠孝の本ハ君の孝弟の心とすけ
 る事何れ父母小孝なり兄弟に就く先祖の厚は恩
 或常小忘却せしやうにむきまふ教をむし慎終追
 遠ハ父母兄弟の喪と元祖の祭と或厚く勤る事よく

人君の第一の勤とを論語より足る世の人君父祖乃
 思及子水我々此身何変より有り此大官大祿誰人よ
 り得る事辨つてまのりて此事小孝なり飲食衣服金
 銀器用の楽小心及序先祖の廟所祠堂など事ハ固
 きも其君多しやのて其の君つて遠く親族又ハ福
 代の家臣也其の如く領令の農工商の務は
 或忠の誠何れ名世の愚く人者不國家の長久と願
 つても其奉は甚く其を去る人君何れ國家也

舜三代聖賢正統の道... 世の訪文博雜の俗学ハ
 排摺基及六の拵... 一学考... のに
 ... 学... 陸象山王陽明... 心学... 外近來程
 子朱子と拵... 自家の雜説... 学ハ皆其害甚
 ... 一書小學近思録の
 ... 其餘ハ六經の書又ハ和漢の史傳
 ... 異端の書其外雜書... 今世の中
 ... 徳義... 師... 今世の中
 ... 數千卷

の書... 考... 勞而無功...
 幼君... 第一の教... 書と讀
 ... 邪方... 小入折...
 ... 邪... 千日の功...
 ... 凡人... 表
 ... 居... 婦人
 ... 程子の言... 世
 ... 又行... 情弱...

遠に慮りつる人ありくを用心してなむ心きひしむるひ
難くし

人君天下の諫をうけし賢君とて又明君とてあつたよ
りて利發聰明の君なりしむ一己の智と是し臣下乃
諫を用ひし世のそつとを憚りしむ國家滅亡の道これ外
まほし今世の中は人君をんるにや智ありて賢くつるや
人一己の智をたれ家老長臣の威をうけし凡政事ハ其家の
長臣小問をうけ近侍一二人我欲を助くる臣のふしむる

大臣の威日ふおし後之家法月ふおし誰諫をせむ人
もせくなりぬる是人君自ら威を逞しせんしむる
人君威おやうふし其端おふしけれハ中庸の九經
敬大臣則不眩しむ孟子し不得罪於巨室しむる幼君
のふしふありむし家の長臣ハ幼君の考ふしに忠
義の心と属し先己とてしむる幼君の考ふし
凡教ハもやこしむる大抵歳や長し一分の物教奇出来
くハ及ひしし道理ハ初小學くとる一生の智とる者

なり古人も先々々々業をなすは重しとて幼年より
 一に禁むるは秋舞戯狂言止むる好色淫乱を導く乃
 遊心又ハ吝嗇うく金銀財宝の利心又ハ血氣の勇と
 多し人より人より傷むのなるを勇少より是等の
 心行ハ六歳の長きに随ひて悪事是より生じ
 一は小児の戯を止むる其歳を考へてゆるし今小
 児の破魔弓と射人形とを拍とせし春風紙鳶と
 何れも幼少成人のほふく止むるを後の害なり

美しきを辨て安らに嚴め法をて小児の心を先
 氣と凝しめ病と生さるるを又謀の過るるを児
 業の妨ひのおとるを傳へる人あり

養生の方飲食を節し一氣血流通するを朝より
 事と法とめ終日怠りなく夜ハ眠るをゆるぬる
 少はとせし事とよく勤め心氣鬱滞せず筋力健
 り血氣よくめぐり病生ぜざる凡人急りおつハ病
 多し一は戦國に人病寡く泰平の時人病多し

へんや是れ心持ありて今ま公をさる人已の役儀の若
 小昼夜心力をそへ病出はとく仕と止むはの理なり詩
 繪師彫物師縫白屋の如き昼夜心気をはく或ハ病起る
 其業に廢まる事なり病小多き事と廢まるハ智慧なき
 人の如き幼君とすく人なく此業をさる

幼君をさるに讀書手習并武藝おしむに厳格に
 一日と極め時を定く勅せしむ幼君一人を責てす

み難きものなり近侍の人々老若未交りとわぬ勤れお
 けりすこと出るなり只格法より嚴しく其心智を開
 きしむなり師傳つる一教ひる心生しく誠のなるなり
 如く凡人の心はよきなり移るなりなきものなり身
 君小義理の心感するなり若く教示するは人の基
 と固むことなり如く如きなき凡法とけり守り理を知り
 日終夜更るとも倦むなり凡法とけり守り理を知り
 ハそくハ法と難し今世の中をならん人君お替の時持心

しくよき政をんといふも手月はあは共かしく沙汰もな
 くならぬ此本知ひくはしく氣をひく守りあがり幼君の
 側よふ孝小孝智も人いしく聖賢の道をさし異端霸
 者の惑ひ出まぬやうしく預り防てし世の中少くも学力
 らる君もいれ本知開くは或は不慮の禍も何ひまは
 親族のうらみもいれはしく氣よくあは佛の無常小惑ひ
 又富貴官祿の望もあまは世の毀譽褒美小心動き覇
 者の功利も流し事數千卷の書と読とも本知開けさる

おつくり人間の賢智慧小あくともあがり況や位高き人をや
 幼君や最け婚姻の結ひはしく縁家の風俗もさし
 く女子の徳もあがり婦徳ある人とあがり今世の中
 と見ると只名聞利欲を重し大官大祿又権門の家筋
 とおもく後の患もあがり家の衰へもあがりおもんもつて後
 悔するも多し子初め謀るもあがり凡婦をりしく婚の
 家より猶小才の女と娶えしと古人のまもなり凡官祿ひ
 く人の女は夫の家より慎の心あがり又大才も官祿重

幼君輔佐の心得

冊藏板

久しき人何う幼君輔佐の望む所や之又酒宴遊興
 の急り少く少く書きよる兵法武術の能く有りて
 國を思ひ君を以て心薄く己を以て君を以て心厚
 といふ諺所謂萬能一心誠小扇子の要なり
 人君輔佐の心得本より是小限なり大なる事
 といふなり大抵此意と本とを以て大なる事といふ
 凡始りて事なり終りて事なり輔佐の人
 此意を忘るる事なし

元文丙辰十二月

稻葉正義識

幼君輔佐の心得

甘雨亭

幼君輔佐之心得

十一
五
藏板

幼君輔佐之心得終

一志通惠

幼君輔佐の心得ハ先其志の了るふ左右の人平道小一
和し学以終始を成すこと一は心也一事餘多あり
中しこと要務と三條に約し志の九層の臺を為す
の其本礎をんあことなやと承り及ひ
曾子曰。可以託六尺之孤。可以寄百里之命。臨大節而不可奪
也。君子人與。君子人也。

かゝる人こそ君子なりとて返して何なる人ぞ存し

一志通惠

甘雨亭

りい何分勇猛無双の人小足いあり世の可謂勇猛との
 みし難く全く仁義の勇夫と云ふに其志孟賁夏育の
 カもうりやと能は蘇秦張儀の利口も惑はとへし隙なく
 大事おとろくも小事と侮ふす仁義と心肝とする人
 とおとろくも人情も通し物のいりもあを知りいりもあを心之
 とおとろくも横紙ささる人あり木石の如きものあり
 あり人情も通し曲察苛察もああり物のいり
 ありとては婦女子のこころもああり小事おとろくも心

未練小取乱すもいり如此の人ハ侮新の人小欺す因ひて
 ハ素より小才俗智の人小つらつらとあり有るや
 なる人のいりり輔佐の任をもんや祖の代に苦勞をさし持傳
 へり大國と今も其身ふらさせしれ數十萬人の上小立
 せるひり言小吾君と仰さしり幼君と云ふも主たんとさひ
 もいりりもいり

僕臣正。厥君克正。后德惟臣。不德惟臣。

君ハ臣次第なりとせりやとていり分り幼君ハ其見や同

智小法とせざるは必然のりは左右侍御正人よりと專一
 して才智藝能と專一しては人のハ寸徳と二ツを
 用まらざるは寸徳全備なる何のチかなくしては徳
 勝ちたる人と西人ともいふ習典智長一習典徳成とも又
 幼成如天性。習慣若自然なりといふ幼君日小培一智のハ
 ならばたまたまの法は天然自然底小なりせむひのりといハ
 不正のしる習はさそふハ不正の智を一夕の不正の性
 おろしむひぬるは機と智と目先のるよりして下り

時々老成人も驚き幼君より其任老成の君公と嬉々
 たる細くも思ひよりその不随ひまわし其や法とておめ
 けの玉の下よりかゝるのりせむんて小上下通て機智
 より邪と智と首立ち慢とかり駭余となり天性と地
 出がひ勿体至極もかゝる

一 左右侍御一和して輔佐調護をさハ勿論小して人心ハ
 人面の同くかゝるめく小ハ千差万別の物好き強身ハ
 一とも各節義と厲す君とをさるの志ハ膠と漆のめく

錢石のゆくゆく八十人十人百人百人同心同徳な
るべく君子和而不同と一心の守り正しくをよ相和
し保初おお初るハ一初と不可やん

一 謹教ゆる人々各畜とをむと古人のつり各畜ハ巧ま
事ふしと其及々駑劣しては駑劣ハ下と虐をうの本
つハ畏縮しと各畜ゆるとささるるまふハとと各
畜の貪利又下と虐をふるす下ハ何とも平とさ
失ひく用しと凶逆の本となりやハ左とハ古人の駑各其

勢相因とより又質直の人ハ佛神小任セ正觀符章咒
妖怪を信し人目と思ひと神と佛とありと子待日
おまけの札守りハ僥倖とと人々を臆病まがす徳
ととハ武氣を墜とと此上ハハハ上物のハハハ一
癖を生しと臣下の凶逆民の疾苦死とをみ上重と葬
祭のハ夢ととあせり諸事目出度方小取な物
つもの智り其弊婦人の言を信し小人を近はる君子
をよ悪むふととア恐ととハ又正学俗学の差別も

なく博く書史をくまなく妄り小信用一正道の害をくまなく
くまなく此等ハ正入とくまなく内小作りの失くく君徳を盡す
る事一時的讒諂面諛くまなく甚く外未の病ハ治く安く
腹心の病ハ治くくまなくお互小糾くくまなく

一玩好遊戯をくまなく中くも義理をくまなく文武をくまなく
くまなく可くくまなく馳走りくも筋骨をくまなくおくく語
くも智見をくまなく免性情をくまなく成立の基をくまなく
備ふくくまなく

一俳諧ハ詩教の流く文章の一端小似くくも辞を修めく
く大人の為くくまなく何くすくあり古昔名人の名句ハ人を
感動やくむくくまなく俳教小くくまなくくまなく
事とするハ畢竟小智をくまなく其まをくまなく機心極
智をくまなく軽薄をくまなくむくくまなく禁くくまなく茶の湯ハ風
流のくまなく曲謔の一端小似くく其弊非謔の礼小師便倭を
導く且玩物喪志の禍了る
事不師古以克永世匪説所聞。

般の高宗の輔佐より傳説の語より何事も私の斜簡より
 せぬ必世とあり亡やとあるまゝのされぬ教も若らうも
 古人其手本と遺しねらうやうにならぬゆゑに今人の
 傳役ハ周の三公の太師ハ比まへりてハ上なる重任ハ文
 事武技各其師有りて師色と崇ひやれりハ道も自ら
 尊しむすハ幼君学習の作法ハ近臣の大小共君と共ハ師
 小らけりてハ幼君と共ハ師の出づる時限りてハ何の
 用とせらるや近臣君と共ハ事より引廻りぬめくにひら

く師ハ助勢とせらるやハ宋人の苗と掘くの害かゝる如
 けりてハ只一方ハ憐れむやとてハ吾も其學も
 事の日課の苦勞をてハ方ハ唱をひてハ

一學ハ人のてを明むるまの書史ハ涉り古今を覽
 る其一端ハ詞章記誦ハ固よりハ學ハ正學ハ俗
 學の別と云へりてハ其正學の中ハ學の要とてハ
 第一ハ了りぬ君ハ君の徳有りてハ臣とてハ君徳乃
 不足とてハ君とてハ臣とてハ國其徳化を受てハ

是又君徳の不足とて、君とて臣必き臣とて國必
 其徳化を受る、君道の全備とて君徳の充實、後代
 ますます光輝とて、古人是を方寸の中、小用ひて是を
 四海の内、小廣むとて、如此大道理ハ天地生す、つゝ盡未
 来際、此外、小道なり、一分の自見を立て、此大規を合點し
 新く目學をやり、真一文字、小踏之込、ゆくゆくは仕官乃
 身、とて、吾君を堯舜の君とて、吾身、其時、小在り、斯
 く目出度あり、私を直ふる、古昔人君、輔佐の

人の志とまき、くく、置ゆる、事、ふい

一 古人幼君今日の學ハ他日天下の治乱小係るといふ人君
 とくも六ヶ敷とて、幼少より責る、ふ、何、小、學、より、く
 け、ひ、ま、ま、い、つ、今日、の、地、盤、小、あ、い、い、と、他、日、天、下、の、治、乱
 小係るといふ、事、ふ、い

一 古人人君の學ハ寛厚をほとめ博大をまゝむとす、其、事、ふ、い
 大海百川を、つ、く、水、量、何、く、く、君子、小、入、り、か、へ、く、一、の、毫
 物、く、萬、民、仁、寿、の、域、小、安、堵、か、る、い、む、の、事、を、や、は、い、と

子ノ下ニ

以上

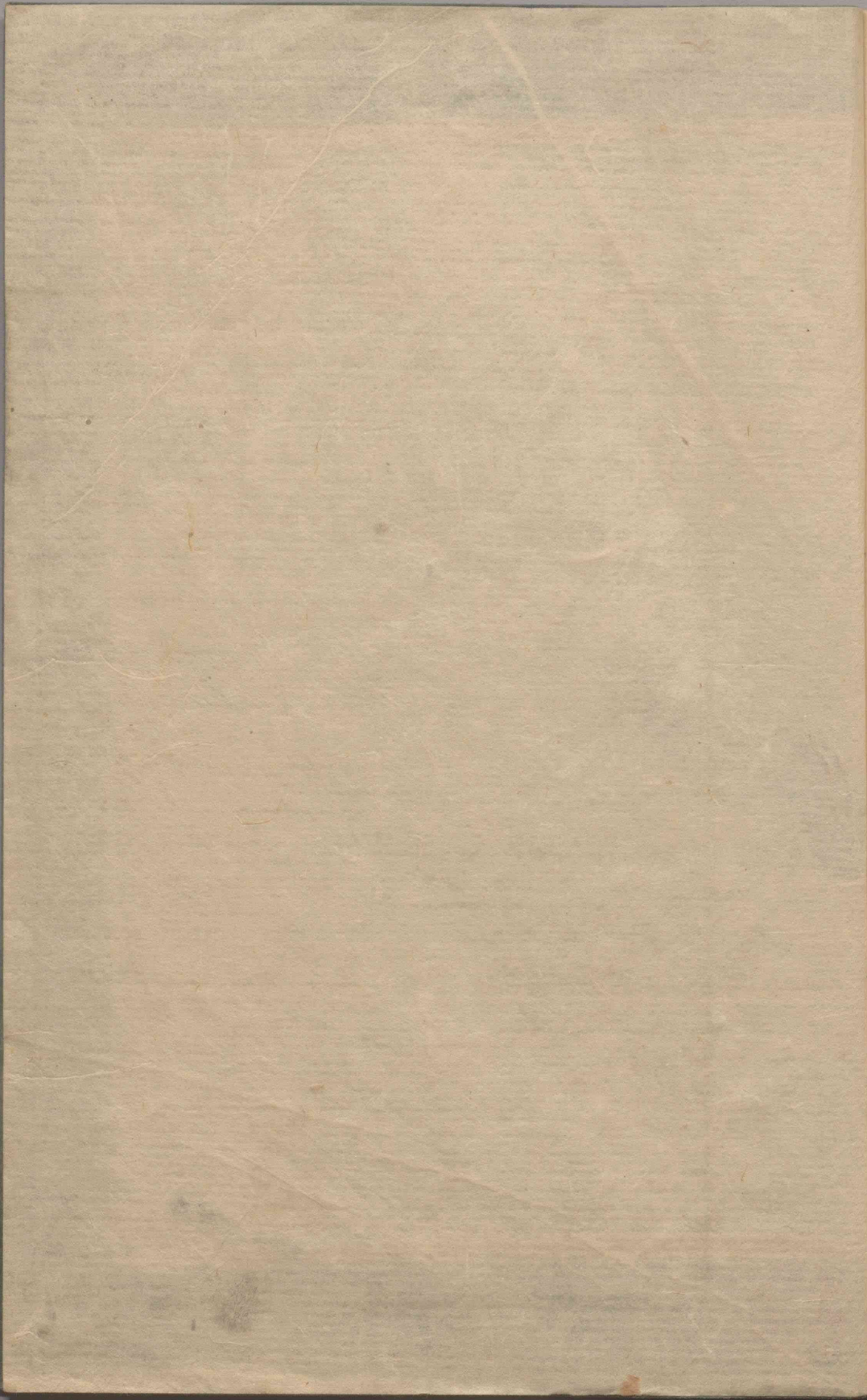
右ハ頃日古今幼君輔佐ノ物語ニ付私ク見所侍尋小
 隨心大筋書付入美覽ハ所止ハ二代侍手前板ニテ
 小侍又子同ク所傳後ニ其ハ後以類希キル所後
 所親又板信遺榮ニ侍手前板嘗信輔佐ノ功ハ隨心
 光輝ハ獨塔一ノ下ハ保傳世家ニテ私式淺學不才
 ノ科簡書付ハ儀取入口以任仰謹テ下ニ慮外愚

相侍察可下下

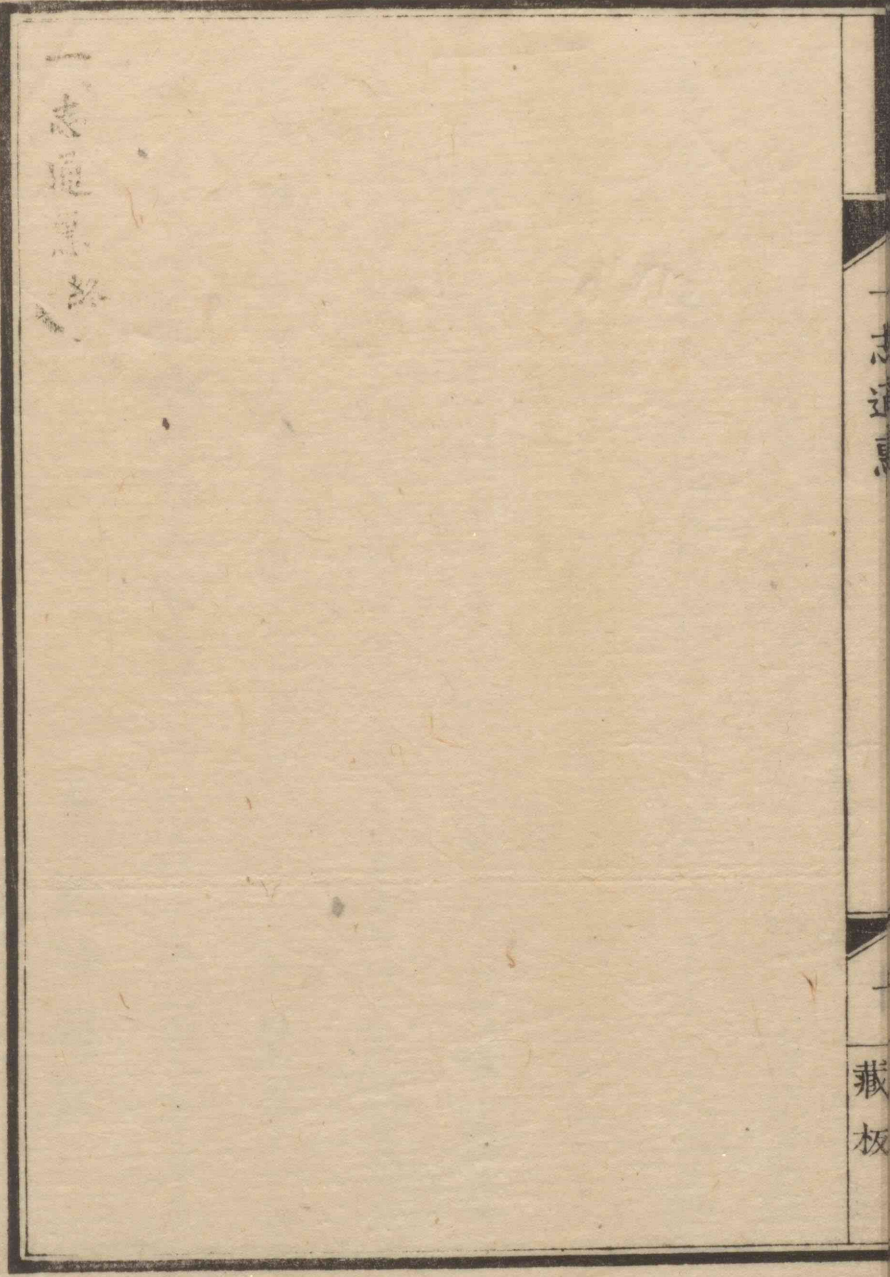
十二月

頼 彌太郎

山田圖書様



47/3



一
志
通
集
終

一
世
道
集

藏
板



群馬県立図書館



0221402-1

5981

群馬県立
図書館